

岡山大学病院放射線部におけるCOVID-19対応

2020年1月にWHOにより「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」が宣言されて以来、当院でも対策チームが発足し感染症対策が実施されてきた。その中で、我々放射線部門も常に各対策チームと連携し、徹底したリスク管理のもと医療を提供してきた。当院放射線部門におけるCOVID-19対策について紹介する。

放射線部全体の取り組み

COVID-19患者の受け入れに先立ち、ICT（感染制御チーム）およびERT（重症患者管理チーム）とともに来院時シミュレーションを実施。個人防護具および検査時の消毒等の手順を確立した。院内感染拡大防止に関して様々な講習を通して徹底した教育を実践。放射線部門にて作成した対応マニュアルは、CT、病室撮影、MRI、IVRと多岐にわたり、院内対策チームの決定事項に準じて常にアップデートを行っている。

COVID-19対策のためのレベル別PPE（個人防護具）

COVID-19対策としては常時LEVEL 1以上の診療とする

LEVEL 0 通常診療	LEVEL 1 発熱+呼吸器症状を伴った患者を診察する時	LEVEL 2 COVID-19を強く疑うまたは確定（エアロゾル発生がない状況）	LEVEL 3 COVID-19を強く疑うまたは確定（エアロゾル発生がある状況）
			
全ての外来・入院	一般・救急外来	外来隔離室・救急車対応・入院病棟	EICU/ICU

【重要！】発熱+呼吸器症状のある方を診療する際は、患者・医療者ともに必ずマスク着用をする。
PPE着脱の前後で必ずアルコール手指衛生を行う。

CT部門

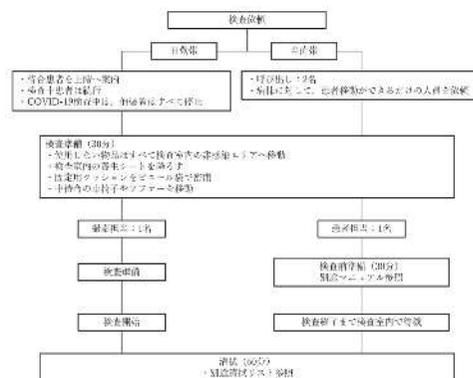


他患者や周囲への配慮からその日の最後の検査枠を使用。患者動線を考慮したゾーニング設定（清潔エリアと汚染エリアの区域分け）および検査室内の徹底した養生によって感染拡大の防止を図っている。また、5台あるCT装置のうち特定の装置をCOVID-19患者用に限定することで一般患者との隔離を実現し、かつ日中・夜間問わず対応可能なシステムを構築した。



岡山大学病院放射線部におけるCOVID-19対応

MRI部門



MRI検査では金属の持ち込みが厳禁である。また検査時間も長くなり、必然的に患者との接触時間が長くなる。シミュレーションを繰り返すことにより、感染対策と安全な検査体制を両立させるためのワークフローを確立。緊急性を要するケースも想定され、日中・夜間時間帯問わず対応可能な体制を構築した。

病室撮影部門

当院でのCOVID-19患者に対する胸部X線撮影は、重症患者が入院されている病室での撮影が大半となる。病室毎に定められたゾーニングに対応するため、各部署の看護師との連携を強化した。また、業務を通して患者との距離が非常に近くなり、担当放射線技師の感染リスクおよび使用する機器類も汚染リスクが非常に高くなる。ゾーニングごとの業務のマニュアル化、スタッフ間の情報共有を徹底することにより感染対策に努めた。

さいごに

未だ新型コロナウイルスの感染拡大は終息の兆しすら見せない中で、医療崩壊の危機に面しながらも我々は継続性のある医療を提供しなければならない。将来的な展望を含め十分な対策をとっておくことが非常に重要となる。

【参考文献】

- ・公益社団法人日本診療放射線技師会. 診療放射線分野における感染症対策ガイドライン Ver.1.0. 2019.
- ・一般社団法人日本環境感染学会. 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第3版. 2020.

【著者一覧】

松下 利、氏福 亜矢子、赤木 憲明、本田 貢、萩谷 英大、
金澤 右

